

平成 24 年度「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」申請要領 —学部生及び大学院生を除く—

一橋大学は、若手研究者の人材育成を支援するため、独立行政法人日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択された「社会科学重点大学連携強化に向けた若手研究者派遣事業」により、海外の研究機関に研究留学をする若手研究者に対する支援を行っています。

つきましては、当該支援を希望する者は、以下の要領に基づき申請をしてください。本事業は、日本学術振興会の助成を受け、日本の学術的な将来を担う優秀な若手研究者を平成 22 年 1 月から 3 年間、継続的・集中的に海外に派遣するプログラムです。(注:今年度が最終年度となります。)

1. 平成 24 年度若手研究者派遣計画の概要

- (1) 派遣先
 - ・海外の研究機関
 - ・複数箇所、複数国滞在や移動も可
- (2) 派遣期間
 - 2 か月以上、10 か月以内
 - 但し、平成 24 年 4 月 1 日以降に日本を出国し、平成 25 年 1 月 28 日までに帰国すること。
 - ※ 予算の都合で派遣期間が希望に添えない場合があります。
- (3) 派遣目的
 - 若手研究者の海外研究を支援することにより、研究能力の向上や研究経験の蓄積を促進し、国際水準の研究者育成を加速する。
- (4) 派遣研究者の支援内容
 - 派遣先研究機関までの航空運賃(往復)および滞在費の一部を大学が支援する。※滞在費については、派遣地域により月額原則 14 万円から 24 万円を支援する。
 - 航空運賃・滞在費は、請求手続き等を経た上で、本人指定の銀行口座に振り込まれる。

2. 申請資格

- (1) 本学に所属する原則 42 歳以下の研究員、助手、助教、講師およびこれらに相当する職の者(平成 24 年 4 月 1 日以降の見込みを含む)。
対象研究分野:人文・社会科学分野
 - (2) 派遣期間中に本学に身分があること。
 - (3) 派遣先の大学等研究機関において、その専門とする研究分野について研究を行うに十分な当該国等の言語の能力を有すること。
- ※ 他の補助金などで雇用されている研究者は、当該補助金等のルールを確認した上で申請すること。
- ※ 学生として既に派遣された者でも申請は可能ですが、学生以外の身分で既に派遣された者の申請は不可。

3. 募集人員 : P.D. 19名程度

4. 申請書類

- (1) 申請書(別紙様式)
- (2) 履歴書(様式自由)
- (3) 研究計画書(別紙様式)
- (4) 業績リスト
 - ・原著論文(査読付、査読無に分ける)
 - ・総説 解説
 - ・学会発表(国際研究集会等)
 - ・学会発表(国内)
- (5) 海外における受入研究者との連絡状況を示す主要な往復文書又はメール(英語以外の言語によるものには、日本語訳も添付してください)

5. 申請手続

- (1) 前項 4. に挙げた申請書類を、下記期限までに所属事務室に提出して下さい。
- (2) 申請書類提出期間:平成 24 年 1 月 19 日(木)～平成 24 年 1 月 25 日(水)

6. 審査及び結果

申請書類に基づき、研究機構会議にて審査・決定し、2月中に応募者に採否を通知します。

7. その他

- ・ 内定後、派遣国滞在のための査証の申請は派遣研究者本人が行ってください。また、本プログラムの経費負担証明(英文)が必要な場合は、事前に余裕をもって学務部国際課に申し出てください。
 - ・ 航空運賃(往復)および滞在費の請求手続きは、出発の1カ月前までに、フライトの日時が明記された航空賃の見積書(または領収書)および「旅費の口座振込依頼書」を学務部国際課へ提出してください。ただし、航空券の手配や購入については、学務部国際課に相談のうえ購入してください。
 - ・ 航空賃及び滞在費は請求手続きから1カ月程度で指定の口座に全額振り込まれます。
 - ・ 帰国後は、直ちに航空賃の領収書(出発前に提出した場合は不要)、および全ての搭乗券の半券を必ず提出してください。
- ※ 派遣終了後は、「成果報告書」提出の義務があります。(別紙様式)

関連 URL: <http://www.hit-u.ac.jp/gih/ja/researchers/news.html> (国際化推進本部 HP 内)

- 問い合わせ先 : 国際課 福島、ガトウクイ、高取 TEL: 042-580-8763, 8765, 8761
Email: int-wp.g@dm.hit-u.ac.jp

平成 24 年度 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム申請書

フリガナ 氏 名		生年月日	19	年	月	日
ローマ字						
所属 ・ 身分	本学雇用の有無 有 無					
フリガナ 現住所	〒 e-mail: 電話: () 携帯電話:					
フリガナ 現住所以外の 連絡先	〒 e-mail: 電話: ()					

留学希望 研究機関名		派遣 希望 期間	平成 年 月 ~ 平成 年 月 (延べ ヶ月)
国・都市名 受入先の研究者名 (連絡先)			

研究テーマ	和文	
	英文	

学内照会先 (指導教員等)	所 属	
	氏 名	
	連絡先	TEL: () e-mail:

語学能力	語	A B C D	TOEFL TOEIC その他	点	A よくできる B かなりできる C 少しできる D できない (注)
	語	A B C D		点	
	語	A B C D		点	

部局長承認欄	部局名・部局長氏名	印
--------	-----------	---

注) Aは、技術指導・会議・論文作成等にほとんど不自由しない程度の語学力。
Bは、技術指導・会議・論文作成等にある程度可能な語学力。
Cは、日常生活にそれ程困らない程度の語学力。

研究計画書 (2 頁中、1 頁目)

以下の諸項目等について、2 頁以内の分量で具体的かつ簡潔に記載してください。(1)研究題目とその内容、(2)PD の場合: 博士号取得後の研究計画とその進捗状況。博士後期課程在学者の場合: 博士学位論文執筆計画とその進捗状況、(3)派遣先で予定する研究内容、(4)上記(2)における本派遣の位置づけと必要性、(5)本派遣で達成する成果目標とその実現可能性、及び研究日程、(6)派遣先との連絡状況、(7)その他。

推薦状

(本フォームを使用し、下の枠内におさまる分量で、申請者の指導教員(現・旧)がお書きください。本申請が採択された場合、推薦状執筆者には実施成果の評価にも当たっていただきます。)

推薦者氏名

印

被推薦者氏名

本状作成日

平成 年 月 日

推薦内容 (「**研究計画書**」を点検評価し、申請者の学術能力(言語能力を含む)と研究テーマ、申請計画の必要性や実現可能性、希望する派遣先との関係等にも触れながら、記載してください。)

旅費の口座振込依頼書

平成 年 月 日

財 務 部 長 殿												
所属部局課 (又は勤務先)						事 由	1. 新規					
役 職 (又は職業)							2. 振込先の変更					
区 分	1. 教職員			2. 非常勤			3. 学外者					
住 所	(〒 -)											
	(TEL) ()											
氏 名	(フリガナ)											
相手方コード ※	1	T										
	2・3											

下記の口座への振込を依頼します。

記

金融機関の 名称						支店等 名称						
金融機関コード ※						支店コード ※						
預 金 種 類	1. 普通預金			2. 当座預金								
口 座 番 号												
口 座 名 義	1. 氏名欄の記載に同じ			2. 下欄のとおり								
	(フリガナ)											

- (注) 1. 該当する事項の番号を○で囲んでください。
 2. ※欄には記入しないでください。
 3. 住所は、依頼者の税法上の住所を記載してください。
 4. 振込先は、依頼者の個人名義の口座を指定してください。
 口座名義が氏名欄の記載と異なる場合は、名義を確認できる資料（通帳表紙裏のコピー等）を添付してください。

担当者	財務会計課
確認印	

平成 24 年度 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム
社会科学重点大学連携強化に向けた若手研究者海外派遣事業
成果報告書

派遣期間終了後、2 週間以内に1から3まで記入のうえ、評価教員と
在籍する/していた研究科の事務室に電子ファイルにて提出のこと。
(評価教員へは申請時の「研究計画書」を併せて提出のこと。)

1. 報告者：		報告書提出年月日 平成 年 月 日												
フリガナ 氏名														
ローマ字氏名														
所属・身分										学籍番号 (在学者のみ)				
住所 電話 Email														
博士論文 (計画) 題目														
本派遣事業 での研究題目	和文													
	英文													
指導教員名														
2. 派遣先機関・派遣期間														
複数機関への派遣の場合は、行き先を別々に記入してください。														
機関名 (国名、機関名)	和文 漢文													
	欧文													
受入研究者の 氏名・身分														
派遣期間	平成	年	月	日	～	平成	年	月	日	(延べ	カ月	日)		

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、1 頁目)

以下の諸項目について、3 頁以内の分量で具体的に記載してください。(1) 派遣中の研究活動記録(研究発表や学会報告、投稿論文等の執筆、現地調査や資料収集を含む期間全体について、いつ、どこで、どのようなことを行ったかを、時系列に簡潔に記述すること)、(2) 当初計画書と派遣先での実際の研究活動との関係、(3) 当派遣事業により得られた研究成果(計画する博士論文や投稿論文等および学会報告との関係も含め、1,200 字程度[図表を含めてよいので、わかりやすく記述すること])、(4) 派遣期間中に構築した研究者間ネットワークの具体的内容、留学に関する反省点や今後の展望等、(5) その他(本派遣事業への要望等)。なお、記入内容の一部を本派遣事業の成果としてウェブサイトに掲載することもあります。

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、2 頁目)

3. 派遣による研究成果報告 (3 頁中、3 頁目)

※以下は評価教員が記入します。

4. 評価書

評価教員氏名	印	派遣帰国者氏名	
--------	---	---------	--

評価教員へのお願い: 「研究計画書」及び「成果報告書」をふまえ、海外派遣帰国者と面談(面談できない場合はメール等によるコンタクト)のうえ、以下の諸点をご記入のうえ、**所属研究科等事務室にご提出**願います。

- (1) 海外派遣帰国者が事前に提出した計画書と比較したうえでの達成状況の具体的評価 (a. 事前準備の計画性、b. 実施運営の適切性、c. 学術貢献への配慮、d. 成果報告の適切性) など。
- (2) 海外派遣帰国者の研究基盤の充実や研究活動に対して本事業がもたらした貢献。
- (3) 海外派遣帰国者の今後の研究活動の進展のために、指導教員として行った助言・指導内容、その他。

※提出された成果報告書および評価書の内容をもとに、個人名が特定されない形で担当者が本派遣事業の成果を内外に発信する予定です。